

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2010年3月）

発表日：2010年5月12日（水）

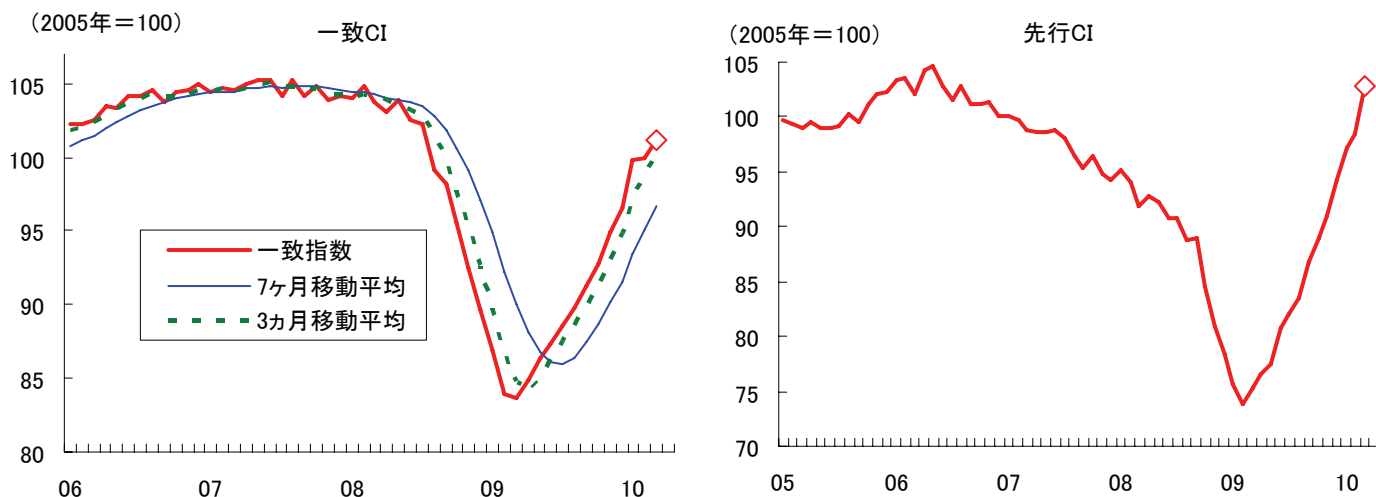
～C I 先行指数が大幅上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

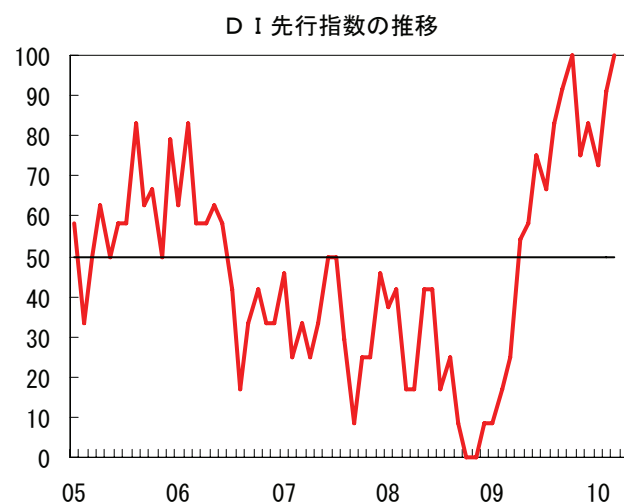
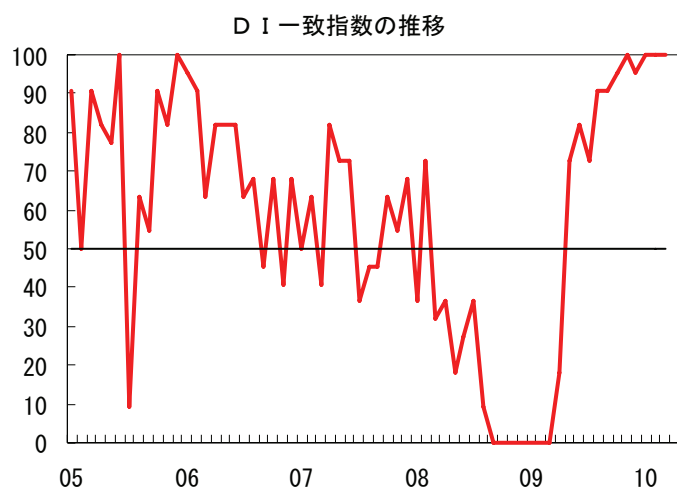
内閣府から本日公表された10年3月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+1.1ポイントと、12ヶ月連続で上昇した¹。輸出の増加等を背景としてC I一致指数は09年3月をボトムとして上昇しており、景気回復が持続していることが示された。世界経済の順調な回復が今後も輸出を押し上げる可能性が高いこと、C I先行指数の上昇が続いていること、生産予測指数が高い伸びになっていることなどから考えて、先行きもC I一致指数の改善傾向が続く可能性が高いだろう。内訳では、投資財出荷指数のみマイナス寄与となったが、その他の系列はプラス寄与だった。

C I先行指数は前月差+4.4ポイントと非常に高い伸びとなり、13ヶ月連続で上昇した。生産財在庫率指数、新規求人数、日経商品指数といった系列のプラス寄与が特に大きかった。C I先行指数からは、景気減速の兆しはまだ窺えない。また、D Iについては、一致D I、先行D Iとも100%だった。一致D Iは3ヶ月連続の100%であり、景気回復に広がりが出ていることが示されている。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「改善を示している」が維持された。内閣府の定義によれば、「改善」とは「景気拡張の可能性が高いことを示す」とされている。一致C Iからも、景気回復局面の継続が確認されている。



¹ 水準でみると、3月の一致C Iは101.1だったが、これはリーマンショック直前である08年8月の水準を上回っている。もっとも、現在公表されている一致C Iは、外れ値の刈り込みという指数作成上の問題により景気的水準を大幅に過大評価している可能性が高く、実際の景気はリーマンショック前を大幅に下回る水準にとどまっていると考えられる。この点についての詳細は、第一生命経済研究所 Economic Trends「景気判断をミスリードする景気動向指数」（3/5 発表）をご参照ください。



(出所) 内閣府「景気動向指数」